

2020年 第1号 ご挨拶

経済成長の減速、少子高齢化などの社会現象が深刻になる中、2020年に中国はどのように変化して成長するのでしょうか。「潜在ニーズへの訴求」「アジャイルな軌道修正」「ブランドの確立」といった戦略・オペレーション的要因と、「トップの大胆な意思決定」と「高レジリエンスな現場力」という組織的要因の両輪によって、中国企業が中国で大きな存在感を示しています。一方、日系企業が変化のスピードが速い中国で事業を成長させるには、成長戦略やオペレーションモデルの見直しに加え、現地パートナーの活用、マネジメントのローカル化、ベストな人材の投入、ローカル人材に適した人事制度の構築などの、組織運営にまで踏み込んだ取組みが必要です。そして、顧客を中心に考え、最終的に成長を達成するために、フロント、ミドル、バックオフィスの機能が連動・連携した「コネクテッドエンタープライズ」の実現を目指す必要があります。

KPMG 中国 GJP 中国総代表 高部 一郎

1. 中国事業再点検

中国事業の再点検にあたっては、(1) 中国事業の目指す姿・位置付け、(2) 成長期待分野、(3) オペレーション改革という3つの切り口があります。1つ目の中国事業の目指す姿・位置付けについては、グローバル全体を俯瞰したうえで検討・意思決定する必要があります。米中貿易摩擦もあり、今後の見通しは不透明ではありますが、10～20年後を見据えたときに、中国に投資をしないことが選択肢となり得るのでしょうか。生産の拠点は他のアジアに移すものの、販売先としては強化するのか、または、完全に撤退するのか……、スピードが求められる中国において、様子見のスタンスでは今後の成功の可能性は厳しいと言わざるを得ません。

> [全文はこちら](#) (日本語)

2. 日本の CFO の担うべき役割と課題 ～CFO サーベイ 2019 の結果を受けて

今回の調査では「グローバル人材が不足している」という結果が65%にのびました。多くの企業では「規制や法令の専門家」「デジタル人材」の確保も課題となっています。CFO 領域においても、新たな能力を併せ持つ人材が求められています。これからの CFO には、経営・ビジネスセンス、高いコミュニケーション能力、高度なデータ分析・解析能力など、いままでにない専門人材が求められます。次世代の CFO は、デジタルテクノロジーを活用し、企業のデジタル化を率先する役割を担ってほしいと考えています。その上で新しい能力をもつ CFO の育成に取り組むことで、企業の CFO 機能はますます強化されていくことでしょう。

> [全文はこちら](#)（日本語）

3. モダンデリバリーへの備え ～プロダクトの需要スピードに応える

パフォーマンスの高い組織は、顧客の期待に答えながら収益性を高めるためには、顧客を中心に考え、最終的に成長を達成するために、フロント、ミドル、バックオフィスの機能が連動・連携した「コネクテッドエンタープライズ」を生み出す必要があることを認識しています。そして、その主要な実現手段となるのがモダンデリバリーです。実際、ハーバードビジネスレビューによる 2019 年の調査結果によると、大多数の回答者が迅速なソフトウェアデリバリーはビジネスの成功に必要不可欠であると述べており、そのうち 65%が、顧客の期待はその推進力となる、と回答しています。このような顧客体験の需要は、モダンデリバリーモデルの未来を徐々に実現していくでしょう。そのために必要なのは強力なコラボレーションです。企業全体（ビジネス主導と IT 主導の両方の活動）が戦略的価値をより迅速に生み出し、導入、展開における不備を減少させ、顧客を中心とした継続的な改善活動を推進する文化を育成するための協力体制を必要とします。

> [全文はこちら](#)（日本語）

Contact us お問い合わせ先

GJP China Markets: gjpmarkets.china@kpmg.com

Tel: [+86 \(21\) 2212 2247](tel:+86(21)22122247)（日本語）